

公益財団法人国際文化フォーラム

# 2016(平成28)年度 事業計画書



社会の急速な変化に伴い、直面する課題やニーズも変わってきています。そのなかで、公益財団法人として TJF は、どのようなかたちで貢献ができるかを常に考えながら活動してまいります。これからの時代を担う世代に必要なことは何か、自分の力を存分に 発揮し生きぬいていくことを支えるための事業は何か、職員一人ひとりが誇りと責任を持って、各事業を進めてまいります。

### ■『好朋友』全 5 巻を活用した日本語授業の推進

2015 年 10 月に大連で実施した「好朋友プロジェクト」10 周年記念事業では、『好朋友』が理念として掲げている「人間関係の温暖化」と「多文化 共生」の必要性が、参加された先生方の間であらためて確認され、『好朋友』を授業の中で使っていきたいという機運が高まりました。

『好朋友』は、生活の場面のなかでさまざまな文化背景をもつ人びとと 関係を築く力が獲得できるように制作されています。第二外国語としての日本語の授業時間数が限られている中で、この教材を有効に活用してもらうためには、各巻独立したかたちで使用する例や、先生方が自分で定めた目標に沿って、教科書の内容を使いやすい形に変更する実践例が必要です。

このため、2016 年度は、1-5 各巻独立した使用法や全 5 巻を使用する例を経験豊かな先生方に作成してもらい、中国の中等教育における日本語教育関係者のネットワークである、中等日本語課程設置校工作研究会および中国教育学会外国語専門委員会日本語部の協力を得て教師研修で共有します。また、3-5 巻の刊行を外語教学与研究出版社に促し、1-2 巻を含めた買い上げを行い、1-5 巻とも販売促進を目的とした寄贈を実施します。

### ■日本ファンに日本の情報を届ける

くりっくにつぼんを、日本語学習者を超え、広く日本や日本文化に関心のある人たちに届けることに注力します。たとえば、JAPAN FESTIVAL など、日本に関心のある人たちが集まる場に積極的に連携を求め、くりっくにつぼんの QR コード入りのポスターの掲示など、具体的な展開によって、まず記事にアクセスすることを体験してもらえることをめざします。

これまでおこなってきました日本語教育分野での利用促進については、新たにニュージーランドの全国外国語教師会でワークショップを行うほか、くりっくにつぼんの記事更新を SNS やくりっくユーザ向けメールマガジンで 発信することにより、くりっくの記事の閲覧者の増加につなげてまいります。

### ■「外国語学習のめやす」をロシアに展開

2015 年夏に実施した日露合同教師研修参加者の日本のロシア語教師 7名とロシア語を学習している生徒 12 名をモスクワとノボシビルスクに派遣しま

す。シベリア地方のノボシビルスクは、ロシアではハイテク都市の位置づけで、日本語教育の拠点都市のひとつでもあります。首都偏重に陥らず、ノボシビルスクを、日本においてロシア語教育が盛んな日本海側との交流の新たな拠点として、TJF だからこそできる「つながり」を構築いたします。

9 日間の派遣期間中に、モスクワでは「外国語学習のめやすーロシア語教育用ー」のさらなる活用をめざして日露合同教師研修を実施し、ロシア語学習生徒には、ホームステイや学校見学を含めた文化体験や、ロシアの日本語学習者との交流を行います。

### ■21 世紀型能力育成をめざした教員研修と生徒向けワークショップ

主体的・能動的な学習スタイル、高度思考、課題解決力の育成が教科を超えて求められる理由やその教育方法について、「外国語学習のめやす」の監修者である 當作靖彦カリフォルニア大学サンディエゴ校教授を講師に 迎え、全国で約 10 回の講演とワークショップを実施します。

21 世紀型の能力ともいわれる「新しい学力」の育成が教育現場で求められるようになった影響で、沖縄県や大阪府の教育委員会から校長向けの連続研修の要請があったほか、2016 年度は新たに豊中市教育委員会からも近隣の小中学校の教員向け研修の要望があり、それに応えることにしました。教育委員会と協力して研修を実施することで、多くの小中高校の先生方が参加することが期待されます。そのほか、主体的・能動的学習スタイルの獲得に有効な、プロジェクト学習をテーマとしたワークショップを教員向け、生徒向けに実施します。

### ■校長交流から学校間交流へ

2 年目を迎えた、東京と神奈川の韓国教育院と共催で韓国語教育に取り組む高等学校の校長を韓国に派遣するプログラムは、派遣する校長の数を 6 名から 10 名に増やし、広島を新たに対象地域に加えます。広島は、県教育委員会が県立学校海外交流推進事業を実施しており、この事業と協力していける可能性があること、中国・四国地方の国際協力・国際貢献の拠点施設となっている、ひろしま国際プラザが毎年韓国の日本語教師の研修を行っており人的交流がすでに存在することから、このプログラムを契機として始まる、学校間交流が一過性ではなく継続的なものになることをめざします。

### ■30 周年記念事業

2017 年度に 30 周年を迎えるにあたり、日本に関心のある全世界の若い世代を日本に招いて、たとえば、日本の若い世代とともに、彼らに関心のあるテーマを掘り下げ、そのテーマでインタビューしたい日本人を選び、インタビューを行い、その結果を記事にまとめ発信する交流プログラムなど、節目の年に相応しい事業の実施を計画しています。実現方法、可能性も含め、2 年度にまたがる事業と致します。

## 2016 年度の事業一覧及び各事業計画概要

- 公 1 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業
  - 1. 中国における日本語教育の促進(定期事業)
  - 2. 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の運営(定期事業)
  - 3. 日本語教育・日本理解事業に関する活動(定期事業)
  
- 公 2 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業
  - 1. 「外国語学習のめやす」活用の促進(定期事業)
  - 2. 21 世紀型の能力育成をめざした教員研修、生徒向けプログラムの開発・実施(定期事業)
  - 3. 隣語講座の開催(定期事業)
  - 4. 外国語教育・多文化理解事業に関する活動(定期事業)
  
- 公 3 国内外の小中高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業
  - 1. 中高校生の交流プログラムの実施(定期事業)
  - 2. 隣語教育に取り組む日韓の高等学校校長交流プログラム(継続事業)
  - 3. 交流事業に関する活動(定期事業)
  
- 公 4 TJF の事業の広報
  - 1. 事業報告書およびデジタル媒体を使った広報コンテンツの作成(定期事業)
  - 2. 設立 30 周年記念事業

事業名		実施時期	実施場所	事業内容	関係機関/団体
公1 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業					29,944,325 円 (内、公1共通費用 12,023,331円*)
1	中国における日本語教育の促進 (定期事業)  6,410,000円	①10月以降  ②8月もしくは10月	①中国各地 ②中国上海市(予定)	①第二外国語用日本語教材『好朋友』第3-5巻の市販化および寄贈 『好朋友』3-5巻の市販化用データ作成を行い、外語教学与研究出版社より出版する。1-2巻を含めた買い上げを行い、1-5巻とも販売促進を目的とした寄贈を実施します。  ②『好朋友』5巻を活用するための教師研修の実施 第二外国語としての日本語の授業時間数が限られている中で、『好朋友を使った授業を実践してもらうために、各巻独立しての使用手法や、教師が定めた目標に沿って、教科書の内容を使いやすい形に変更する「教科書のアダプテーション(適応)」を習得する研修を実施する。 参加者は、中等日本語課程設置校工作研究会および中国教育学会外国語専門委員会日本語部が推薦する中心的教師とする。	①の事業 協賛:外語教学及研究出版社(予定) 助成:(公財)三菱UFJ国際財団(申請中)  ②の事業 共催もしくは協力:中国中等日本語課程設置校工作研究会、中国教育学会外国語専門委員会日本語部 助成:(公財)三菱UFJ国際財団(申請中)
2	日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにつぼん」の運営 (定期事業)  9,466,274円	通年	TJFサイト、オーストラリア、韓国、ニュージーランドほか	コンテンツの充実のため取材と記事制作に力を注ぐとともに、より多くの日本・日本語ファンにくりっくにつぼんのサイトにアクセスしてもらうため、日本文化を発信している機関のサイトと連携したり、海外の中等教育機関の生徒たちが、直接くりっくにつぼんにアクセスできるようQRコード入りのポスターを制作、掲示してもらうような工夫をする。日本語教育での利用を促進するため、ニュージーランドの全国外国語教師会でワークショップを行うほか、韓国、オーストラリアは現地の日本語教師がくりっくにつぼんの活用を推進することをサポートする。また、中国語圏にはSNSを利用して、英語圏はメールマガジンを利用して、くりっくにつぼんの記事更新を発信することで、利用者の獲得に努める。	◆サイト運営・広報 協力:韓国日本語教師ネットワークJTA
3	日本語教育・日本理解事業に関する活動 (定期事業)  2,044,720円	通年	国内各地	日本語教育学会大会をはじめ、日本語教育関連の研究会・会合に参加し、情報収集を行う。	

公2 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業

38,150,687円  
(内、公2共通費用 19,537,911円\*)

1	<p>「外国語学習のめやす」活用の促進 (定期事業)</p> <p>9,350,000円</p>	<p>①8月、3月ほか ②9月 ③通年</p>	<p>①仙台、関西、九州など ②モスクワ、ノボシビルスク ③TJFウェブサイト</p>	<p>①マスターティーチャーによるワークショップの開催 2016年度は、「外国語学習のめやす」の活用推進事業の最終年度と位置づける。マスターティーチャーが企画し、TJFが共催者としてサポートするウォーミングアップ研修を年間を通して実施する。</p> <p>②日本のロシア語教育とロシアの日本語教育における「外国語学習のめやす」の活用の促進 2015年度に日露両言語で作成した「外国語教育のめやす-ロシア語教育用-」を、日露双方の教育現場で活用した成果を研修に参加した日露の教師間で共有し、さらに活用してもらう。 また、日本のロシア語教師とその生徒をロシア(モスクワとノボシビルスク)に派遣する。生徒は、ロシアの生徒とともにプロジェクトに取り組むほか、ロシアでの生活を体験する。教師は、日露合同教師研修に参加する。</p> <p>③めやすウェブサイトの運営 マスター研修参加者作成の単元案を中心に、めやすを活用した授業案の掲載を継続する。</p>	<p>①の事業 共催:めやすマスターティーチャー</p> <p>②の事業 共催:日露青年交流センター(申請中) 助成:(一社)尚友倶楽部(申請予定) 輸送協力:JAL</p>
2	<p>21世紀型の能力育成をめざした教員研修、生徒向けプログラムの開発・実施 (定期事業)</p> <p>5,678,500円</p>	<p>①6月、7-8月、11月</p>	<p>①大阪、沖縄、北海道ほか ②東京ほか</p>	<p>①教師向け研修 「外国語学習のめやす」の監修者である當作靖彦カリフォルニア大学サンディエゴ校教授を講師に迎え、主体的・能動的な学習態度や高次の思考力、課題解決力などの育成が教科を超えて求められる背景や理念についての講演、具体的な教育方法についてのワークショップを各地で実施する。沖縄では、沖縄県教育委員会と中高校の教師向けの講演・ワークショップを5年連続で共催するほか、県立高校2校で講演を行う。また、大阪では、昨年に続き、大阪府教育センターで府立学校長・教頭向けおよびリーダー教員向けの研修を実施するほか、豊中市教育委員会に協力し、小中学校の中堅教員向けの研修を開催する。そのほか、自治体の枠を超えて広く関心のある教育関係者を対象としたTJF主催の研修を大阪と北海道で実施する。 また、教育工学や情報教育の専門家による情報活用やプロジェクト型学習をテーマとした研修の実施も予定している。</p> <p>②生徒向けワークショップ これまで、公3の事業として取り組んできた、プロによるCMづくりワークショップを引き続き、学校の授業と関連づける形で実施する。CMづくりを通して、伝えたいことの本質はなにか追求する方法を学び、設定したターゲットに伝えたいことが伝わる表現を掘りさげる。プレゼンテーションやプロジェクト学習に活かしてもらうことをめざしている。また、グループで創造的な活動に取り組むことで協働的な学びを体験してもらう。生徒向けに実施するほか、教員にCMワークショップの中身を知ってもらい、学校での実施を検討してもらうためのワークショップも実施する。</p>	<p>①共催:沖縄県教育委員会ほか</p>

3	隣語講座の開催 (定期事業) 981,200円	通年	東京ほか	隣語への関心を高めることを目的に、高校生向けの中国語および韓国語の講座を文京区青少年プラザ(b-lab)などと共催で実施するほか、東京都高等学校総合学科教育研究会と共催で、中高生の保護者を対象とした中国語と韓国語に関する講演・講座を実施する。また、駐日韓国大使館韓国文化院との中高生のための韓国語講座(世宗学堂)の共催と拓殖大学第一高等学校での韓国語講座への協力を継続する。	中国語・韓国語講座 共催:b-lab 韓国語講座(世宗学堂) 共催:駐日韓国大使館韓国文化院 PTA向け講演・講座 共催:東京都高等学校総合学科教育研究会 助成:漢語橋基金(中国語関連、申請中)
4	外国語教育・多文化理解 事業に関する活動 (定期事業) 2,603,076円	通年	日本国内 各地	高等学校中国語教育研究会(高中研)、中国語教育学会、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク(JAKEHS)、朝鮮語教育研究会など、国内の中国語や韓国語をはじめとする外国語教育関連の研究会や会合等に参加し、ネットワークを広げるとともに、情報収集とTJF事業の広報に努める。 また、日中友好協会主催の「全日本中国語スピーチコンテスト」に国際文化フォーラム賞を贈呈するほか、在日中国大使館教育部と駐大阪中国総領事館教育室が主催する「漢語橋世界中高生中国語コンテスト」の予選大会や高等学校中国語教育研究会各支部主催の学習発表会、韓国語作文大会等に対して後援、協力を行う。	
<b>公3 国内外の小中高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業</b>					<b>32,220,372円 (内、公3共通費用 21,792,289円*)</b>
1	中高校生の交流プログラ ムの実施 (定期事業) 5,065,243円	8月	韓国ソウ ル市ほか	日韓の中高校生交流プログラム 日本で韓国語を学ぶ中高校生と韓国で日本語を学ぶ中高校生の交流プログラムの第5回を実施する。日韓ともに全国の中高校生の対象に募集し、各18名ずつ選考する。会場はこれまで同様ソウル市内のユースホステルを予定している。 4泊5日のプログラム期間中は、ダンス創作活動、料理づくりなど、中高校生が関心をもつ活動を行う。日本側参加者は往復国際航空運賃、宿泊費など実施費用の一部を負担する。	企画・共催:(財)秀林文化財団 共同実施:秀林外語専門学校、韓国日本語教育研究会 助成:(公財)双日国際交流財団(申請中) 協力:文部科学省、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク、国際交流基金ソウル日本文化センター 輸送協力:ANA
2	隣語教育に取り組む日 中・日韓の高等学校校長 交流プログラムの実施 (定期事業) 2,530,840円	8月上旬	韓国ソウ ル市	昨年度に続き、東京と神奈川の韓国教育院の協力を得て、韓国語教育を実施している中高校の管理職10名を韓国ソウルに派遣するプログラムを行う。今年度は、首都圏(東京、神奈川、千葉、埼玉)に加え、県立学校海外交流推進事業を実施している広島の学校を対象とする。現地では日本語教育を実施する高校を訪問し、教師・生徒と懇談するとともに、韓国各地の日本語教育実施校の管理職、日本語教師との交流会を実施し、学校間交流の実現のきっかけづくりをする。	共催:東京韓国教育院、神奈川韓国教育院(予定)、国際交流基金ソウル日本文化センター(一部共催) 輸送協力:ANA
3	交流事業に関する活動 (定期事業) 2,832,000円	通年	各地	異文化間教育学会・日本国際理解教育学会・REX-NETなどが実施する各研究会・研修などに参加し、情報収集を行う。また、アクティブラーニングなど主体的・能動的な学びを実践している学校関係者や専門家との情報交換・ネットワーキングを行う。	

公4 TJFの広報活動				34,849,208円 (内、公4共通費用 21,792,289円*)
1	TJFの事業の広報 (定期事業)  11,056,919円	通年	TJFサイト、メールマガジン、東京ほか  ①事業報告書の作成 「見てわかる事業報告書」CORECAを発行する。これまで財団紹介のパンフレットを別途作成してきたが、2016年度よりCORECAにその役割を担わせ、財団概要の部分については、3言語(英中韓)に翻訳し、ウェブサイトに掲載する。  ②デジタル媒体を使った広報 メールマガジン(月2回発行)やウェブサイト、Facebookを通じてTJFの事業を広く発信していく。メールマガジンでは、昨年度に引き続き、インターネットラジオ等のソーシャルメディアを組み合わせた発信を行う。  その他、支援者獲得をめざしたイベントを複数回開催する。	
2	TJF設立30周年記念事業  2,000,000円	通年	国内外  日本に関心のある世界の若い世代を日本に招いて、日本の若い世代と交流するプログラム、記念誌の制作など、節目の年に相応しい事業の実施のために準備を進める。	

\*各公益目的事業に係る費用(給料手当、福利厚生費、消耗品費、賃借料など)